参考

2013.07.30

仙台市　震災復興メモリアル等検討委員会　事務局　御中

参考資料　　神戸市における震災メモリアルの事例　　宮城大学　宮原育子

2013 年 7 月 28 日~29 日　に神戸に出張の機会がありましたので，阪神淡路大震災のメモリアルについて取材をしました。以下にレポートします。

１．阪神・淡路大震災記念　人と防災未来センター

神戸市には 1995 年の阪神淡路大震災のメモリアル事業として、2002 年に兵庫県が設置し、公益財団法人ひょうご震災記念２１世紀研究機構が運営する「人と防災未来センター」がある。センターでは震災の記憶を多くの人に伝えるとともに、それ以降の様々な災害と社会の関係を研究し、支援する仕組みを作っている。

センターには、市民はもとより、国内外からの観光客、修学旅行生など多くの人が訪れている。

センターの正面玄関

来館者は 4F のシアターで 2 つの映像を見たあと、３F の展示室へ映像を効果的に使用

３F の展示室では、兵庫県を中心とした震災モニュメントが示されており、
全部で 150 か所近く！のモニュメントがマップにリストアップされている。

５F の資料室には、阪神・淡路大震災関係の資料の他、全世界で発生した災害の記録や防災に関する書籍など、防災関連のデータ、資料が収集されており、来館者は無料で閲覧できる。東日本大震災で被災した各自治体（含仙台市）の復興計画も専用の書架に収められていた。

２．市内の震災メモリアル　モニュメントの事例

（１）長田地区

長田地区は、震災時に大規模火災が発生し商店街などが広範囲に消失した地域である。跡地には災害復興住宅や再建されたアーケード商店街があり、神戸出身の漫画家横山光輝氏を記念して、鉄人 28 号と三国志をモチーフにした町おこしがされている。若松公園では鉄人 28 号の巨像が設置されている。また商店街の中には、震災ミュージアムが開設され、商店街の震災当時の記録が展示されている。

三国志のミュージアムや三国志の登場人物の衣装の展示など、空き店舗を利用して行われており、町が再生に向けた意思を感じさせる。

若松公園の鉄人 28 号の巨像

再建した商店街アーケード

アーケード内の震災ミュージアム。商店街の方々が運営している。

（２）栄通り付近

栄通り付近には、第一勧業銀行があり、御影石の円柱をもった建物であったが、震災時に倒壊した（人防センターの映像にその様子が再現されている）。その後、この跡地には、マンションが建った。その際に、デベロッパー側は銀行の円柱をデザインとして取り込み、さらに、小さな前庭の植え込みの中には、震災で破壊された銀行の円柱の飾り部分が置かれている。保存は民間事業者が行っている。

第一勧銀の円柱を模したマンション

前庭には、当時の円柱の飾り部分がメモリアルとして置かれている。

円柱の部分、御影石とその説明板（震災前の第一勧銀のファサードの様子）

（３）神戸市役所に隣接する東公園の震災メモリアル

三ノ宮駅からすぐに位置する神戸市役所の南側にある東公園には、震災メモリアルがいくつかあり、震災で亡くなった市民を直接悼む場が存在する。また、この公園では震災メモリアル事業として始まった冬季のライトアップ事業「神戸のルミナリエ」の開催地でもある。

東公園の「慰霊と復興のモニュメント」　煉瓦と土、石と水が使われている。

煉瓦の間には半地下に降りていく通路がある。

通路の入口に掛けられた、モニュメントの銘板

　地下の壁一面には、震災で亡くなった市民の氏名を刻んだ銘板が取り付けられており、花や折鶴などを捧げられるようになっている。天井は地上の水を受ける池になっており、水の落ちる光模様が天井を明るく照らしている。神戸市の公式な追悼の場と言える。
同じ敷地には、1.17 から燃えている灯を展示している。また、天皇皇后両陛下が神戸をお見舞いされた際に、美智子皇后が詠われた和歌の石碑も設置されている。

震災の灯り

神戸市役所の新庁舎と、公園の時計のモニュメント。震災時に倒れたものをもとにもどしたが、時計は震災発生時間の 5 時 46 分をさしたままである。説明版あり。

３．まとめ

兵庫県を中心とした震災メモリアルのモニュメント物件は、約 150 件もあり、神戸市内でも様々な種類や規模で存在していることが分かった。メモリアルの内容としては、記念として新たにモニュメントを創ったもの、当時の被災したものをそのまま残しているもの、被災したものの一部を新たにデザインして設置したものなど様々である。必ずしも震災遺構として残すことだけではなく、様々なシンボルを新たに作っていることも目立つ。震災が都市の中で起こったため、町を歩いていても注意してみないと分からないものもあるが、東公園のメモリアルなどは、観光マップの中にも記載されており、観光客でもその記憶にアクセスすることができる。

人と防災未来センターは，震災未経験の市民も増え、県外からの来訪者も増える中で、震災を語り継ぐ大きな役割を担っている。仙台市でも震災メモリアルを考える際に、まずは、「人と防災未来センター」のような資料を収集し、防災を研究する機能をもった記念施設の整備と、市内の様々なところに小さな規模でも、その地域の人々にとっての記憶をつなぐ場となるような、モニュメントの設置なども必要ではないかと思われた。ただ、この事業は宮城県と仙台市と共同で推進しても良いかもしれない。モニュメントも震災遺構にこだわらず、シンボルとして新たにデザインすることもあり得ると考えた。

また、神戸市役所と震災の追悼の場との関係を考えると、仙台市役所に隣接する勾当台公園内にそうした追悼の場を持つことも意味があると思われた。

仙台市においても、日々震災を経験しない子供たちが誕生している。震災の教訓を未来に引き継ぐためにもメモリアルの整備は大変重要だと実感した。

これらの整備は結果的に、修学旅行生や来訪者が立ち寄り学ぶ場にもなり、仙台市の防災教育や観光交流にも資することになろう。

私が，神戸市内のメモリアル施設やモニュメントを見て強く感じたことは，あのような甚大な被害から立ち上がり，再び美しい街へ再生させた神戸市や市民への尊敬の念でした。震災から１９年，やはりこうしたメモリアルの整備は重要だと実感しました。

以上。